考える

新型コロナ困惑

意思疎通 マスクで難しく

口元や表情分からず 遠隔通訳の普及に期待

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、耳が聞こえないろう者や難聴者らが困難に直面している。誰もがマスクを着けているために日常生活で意思疎通が難しくなり、長引く休校で子どもたちは手話の機会が減って孤立するケースも。当事者の思いや対策を聞いた。

聴覚障害者

マスク姿の小池百合子東京都知事（左）の傍らで、マスクをせずに記者会見の内容を伝える手話通訳者＝都庁

「マスクをされると、口元の動きや表情が分からない。かと言って、外してくださいとも言えないので…」。横浜市の会社員三原毅さん(55)は苦しい現状を訴える。

三原さんは生まれつきの、ろう者。店で買い物をする際、耳を指して手を振り、事情を伝えようとするが、意味が分からず固まってしまう店員もいるという。「結局、意思疎通ができず、面倒になって適当にやり過ごすこともあります」

聴覚障害者の多くは、相手の口元や表情を読んで対話するが、マスクはその妨げになる。手話でも、口の形や動きは重要だという。最近の各地の知事会見などで、手話通訳者があえてマスクをしていなかったりするのはそのためだ。

先天性の聴覚障害がある神奈川県厚木市の公務員吉田麻莉さん(33)は「以前から日本社会にある問題点が今回、顕著になった気がします」。公共の場で流れる映像に字幕がなかったり、講演などで手話通訳者がいなかったりするのは、今も珍しくないが、耳に障害がない人は気付かない。

最近はマスクの関係で筆談が増えたが、時間を要することにフラストレーションを抱く人が多いと感じるという。「この気持ちが『聴覚障害者は面倒くさい』という印象につながってしまわないでしょうか」と危ぶむ。

マスクを外せない状態が続く中、障壁をなくす社会的な工夫が求められそうだ。先天性の聴覚障害がある東京都江戸川区の会社員川口彩雄さん(35)は「筆談でも、スマートフォンに文章を打ち込むのでも、身ぶり手ぶりでもいい。慌てず、自然に対応してもらえるとうれしいです」と望む。

一方、病院の受診や入院にも不安は多い。自治体などに依頼して医療機関に派遣してもらう手話通訳者が、感染リスクにさらされるからだ。全日本ろうあ連盟（東京都新宿区）などは3月、このリスクをなくすためテレビ電話などを用いた「遠隔手話通訳」のシステム整備を厚生労働省に要望した。「遠隔通訳が広がれば、ろう者たちが生きやすくなることにもつながる」と期待する関係者もいる。

パソコンのテレビ会議アプリによる取材に、手話で答える吉田麻莉さん（左上）ら3人の当事者と、手話通訳者（右下）

手話の機会減る子を懸念

環境改善へ 動画配信

明晴学園のホームページに掲載された「手話動画」の一つ。乳幼児向けに手洗いとせきエチケットについて手話で伝える

0歳児から中学生まで約90人が学ぶ私立ろう学校「明晴学園」（東京都品川区）は5月上旬まで休校が続く。理事の玉田さとみさん(58)は「休校で手話を使う環境が一気に減り、孤立感を覚える子どもが増えてしまう」と危ぶむ。聞こえない子の9割は、聞こえる親から生まれるとされ、家庭内ではその子との会話以外、手話を使わないことが一般的に多いという。

休学中の家庭内での手話環境を増やすため、同学園では3月上旬から児童・生徒向けに「手話動画」の配信を開始した。幼稚部には絵本の読み聞かせや折り紙、小学部、中学部には自宅学習用の動画などを教職員が撮影。新型コロナウイルスの説明や、感染予防の方法を伝える寸劇なども配信し、その一部をホームページで公開している。

「子どもがパソコンの前で集中できるよう、動画は短く、遊びの部分も入れる工夫しています」と玉田さん。テレワークなどで自宅で過ごす時間が増える親には「一緒に動画を見たり、手話を学んだりして、子どもたちの世界を知る機会にしてほしい」と呼び掛ける。

Page Life

「対策要望せず」78%も

障害のある人に、勤務先の新型コロナウイルス対策などを尋ねた民間調査で、障害者が自身の要望を雇用側に伝えられずにいる実情が分かった。雇用している企業・団体は、個々人の事情に積極的に対応する姿勢が必要といえそうだ。

障害者の職場実情調査

調査は2月下旬～3月上旬にインターネット上で実施。障害者163人が回答した。新型コロナウイルスに関し、自らが希望する対策を会社側に伝えたかを尋ねたところ「要望していない」は78%にも上り、「要望した」は13%にとどまった。

具体的な要望では、免疫抑制剤を使っている難病の人がウイルス感染を懸念して在宅勤務を求めるなど、切実な声が多い。人工透析中の腎臓病の人が、せきをする従業員にマスク着用の徹底を求める一方で、聴覚障害の人がマスクのために朝礼や会議の重要事項が分からない困難を訴えるなど、障害の特性によって必要とする対策が異なる状況も浮かび上がった。

調査を行ったのは、障害者の就労支援を行う人材紹介会社「ゼネラルパートナーズ」（東京都中央区）で、担当者は「『何か困ることは？』と誘い水を向けてもらうだけで意見を出しやすくなる」と雇用側に要望。「障害のある人は『配慮』を求めるのを遠慮しがちだが、会社に貢献するための『調整』と捉えれば、客観的、合理的に説明できるはず」と助言した。

留守番時の安全対策 ※日本小児科学会による

キッチン	調理の必要がない弁当を用意。電子レンジを使わせる場合、レトルト食品は中身を別の容器に移しておく
風呂・洗濯	1人で入浴しないよう約束。浴槽の水は抜く。洗濯機はチャイルドロックを掛ける
リビング	重い家具は固定。アイロンなどは片付けておく。ベランダに通じる窓は確実に施錠
来客	「対応しない」「絶対に扉を開けない」というルールを決めておく
全般	予想しないトラブルが起きたときのため、普段から子供と話し合い、対応策をまとめた紙を張っておく

留守番時 子どもの安全は

小児科学会 注意点HP公開

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、日本小児科学会が子どもだけで留守番をする際の安全対策をまとめた。台所や浴室、玄関など家の中の場所に分けて注意すべき点を解説しており、ホームページで公開している。

キッチンでは、子どもだけで火を扱うのは危ないとして、食事は調理する必要がない弁当を用意。電子レンジを使わせる場合は、入れ物がアルミホイルや金属のレトルト食品は発煙や発火の可能性があるため、事前に中身を別の容器に移しておくのがよいとした。

1人で入浴しないよう約束した上で、浴槽の水は抜いておく。ドラム式洗濯機は子どもが入ってしまわないようチャイルドロックをかけるほか、洗剤やワックス類は必ず手の届かないところに収納する。

たんすやテレビが倒れないよう、リビングや子ども部屋では重い家具を固定することも強調。アイロンやライターなどは使用しないよう片付けることに加え、留守番中の遊び方の約束事を決めておく。ベランダに通じる窓は確実に施錠する。

「誰かが来ても対応しない」「絶対に扉を開けない」といった来客時のルールも決めておく。予想しないトラブルが起きたときのために、普段から子どもと話し合い、対応策をまとめた紙を張っておくことも重要だと呼び掛けている。

日本小児科学会は「子どもにとって安全なだけでなく、家族全体にとっても不安や負担の少ない環境づくりができるよう願っている」としている。

琥

第三章

アミちゃ

いことが、

その夜、

一人でいる

サヤちゃ

さちこ先

だけど、

りとした説

ヤちゃんと

合宿五日

は、午後に

と二日みた

れない。ず

まさら他の

れする。一

明日は、

ノリコたち

て発表しよ

楽しかった

いろんな

らった大き

ちゃんのお母

てきた。ど

に来てくれ

いいねっ

を覗き込む

まちこ先

キドキして

とは毎日

別に言葉

日の夜、

言われた

母さんも

なふうに

恥ずかし

落ち着か

しかし

声をかけ

なかった

ちこ先生